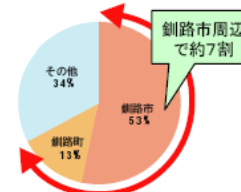


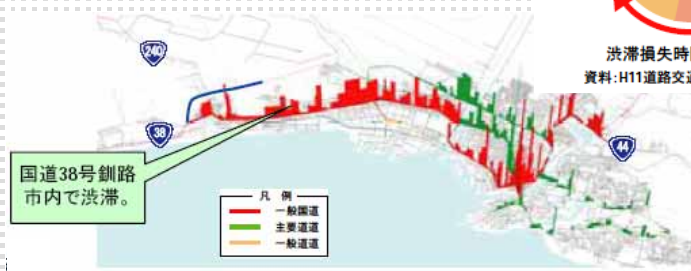
道路の定時性確保

釧路・根室地域の渋滞状況をみると、国道38号及び釧路市内で顕著となっている。

なお、交通渋滞による損失時間をみると釧路市で地域の約5割を占めており、隣接した釧路町と合わせると約7割近くが釧路都市圏に集中している。



渋滞損失時間の割合 (H16)
資料: H11道路交通センサによる推計値



釧路市周辺における渋滞損失3Dマップと対策概要
資料: H15プローブカーデータによる推計値

釧路開発建設部資料

輸出拡大に向けた取り組み

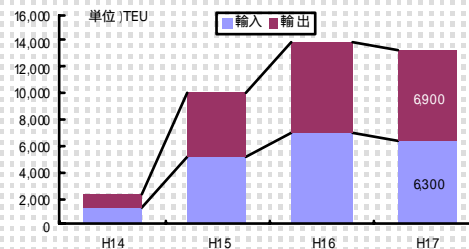
外貨コンテナ貨物

釧路港の第4埠頭において、-14m岸壁が供用開始となり、平成14年8月より韓国・釜山港との外貨コンテナ定期航路が開設された。

平成17年は通年運航3年目で、輸出6,900TEU、輸入6,300TEUの合計13,200TEUと平成16年の13,873TEUを下回ったが、外貨コンテナ貨物の取り扱いが引き続き好調で、臨時便が12便運航し、定期便と合計で64便が運航された。



【釧路港における外貨コンテナ貨物の推移】

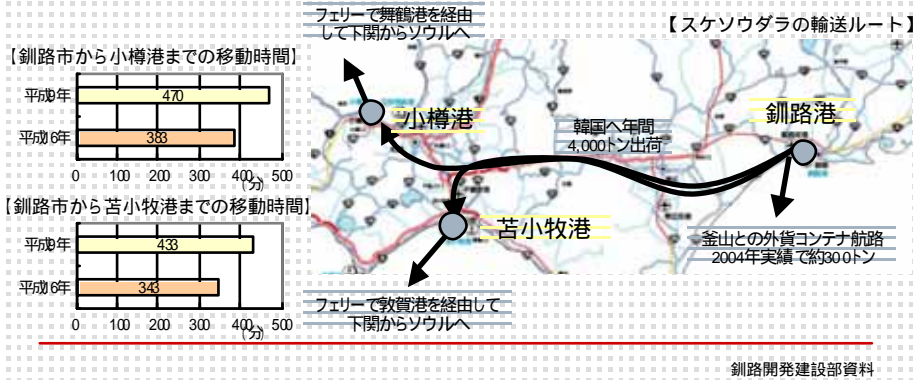


TEU) 20フィートコンテナに換算してコンテナの数量を計る単位。20 Footer Equivalent Unit.

外貨コンテナ貨物の推移 (北海道開発局調べの速報値)

スケソウダラの物流状況(事例)

釧路市は、全国の約1/3に相当するスケソウダラを水揚げしているが、苫小牧港及び小樽港へのアクセス改善により、鮮度の高いスケソウダラの韓国向け輸出が可能になった。

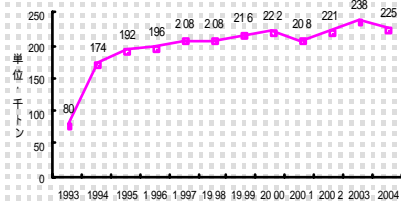


物流の効率化に向けた取り組み(事例)

生乳の物流に関する取り組み(ほくれん丸)

釧路・根室地域では、年間約133万トンと日本一の生乳生産量(全国の約1割)を誇っているが、「ほくれん丸」の就航により、道外向け出荷が活発化しており、1997年以降は20万トン台で推移している。

【ほくれん丸及び第2ほくれん丸生乳移出実績推移】



観光資源の分布及び利活用状況

観光資源の分布

大手旅行代理店のパンフレットなどからみた主要観光資源は31カ所で、1資源あたりの入込客数はおよそ30.1万人（平成16年）となる。

入込客数の多い道央を除いて比較すると、最も多いのが道南の83.1万人で、近隣のオホーツクが40.8万人、十勝でも41.0万人となっており、資源数との対比で見ると少ない。



世界自然遺産、自然公園など

釧根地域には、2005年7月にわが国3番目の世界自然遺産に登録された知床のほか、数多くの自然公園やラムサール条約登録湿地がある。面積で見ると、国立公園は約156千haで、国内の8.2%、ラムサール条約登録湿地は約18千haで、国内の14.1%となるが、琵琶湖を除くと28.3%を占める。

【地域の世界遺産、自然公園等について】

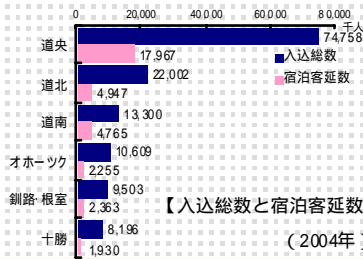
区 分	釧根地域	その他道内	道外
世界自然遺産地域	1カ所(知床)	なし	2カ所
自然公園	国立公園	3カ所(阿寒、知床、釧路湿原)	22カ所
	国定公園	なし	50カ所
国指定鳥獣保護区	6カ所(知床、釧路湿原、風連湖、厚岸・別寒辺牛・霧多布・コルリ・モコリ、大黒島)	7カ所	46カ所
ラムサール条約登録湿地	6カ所(釧路湿原、厚岸湖、別寒辺牛湿原、霧多布湿原、阿寒湖、風連湖、春国岱、野付半島、野付湾)	6カ所	21カ所
水鳥・湿地センター(環境省)	1カ所(厚岸)	2カ所	5カ所
野生生物保護センター(環境省)	1カ所(釧路市)	1カ所	6カ所

環境省資料などより作成

入込客数の動向

釧根地域の入込客数は年間約950万人で、このうち道外客比率は40.7%で全道平均（31.9%）を上回っている。また、宿泊客比率も22.9%で、全道平均（20.1%）を上回っており、外国人宿泊延数も約88千人を数える。

【市町村別年間宿泊客数（2004年）】



【入込総数と宿泊客延数（2004年）】

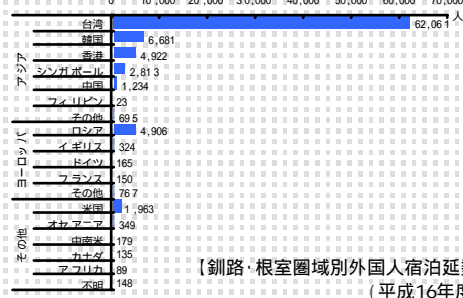
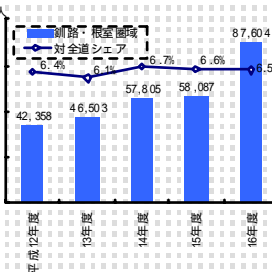
北海道観光入込客数調査
北海道

外国人入込客数の推移

釧路・根室地域の外国人宿泊延数は年々増加傾向にあり、国別にみると、台湾の約62千人をはじめとするアジアからの来訪者が最も多いが、市町村別でみると最も多いのは阿寒湖温泉を有する阿寒町の約58千人で、地域全体の69.8%を占める。

また、その動線を見ると、新千歳空港を起点として、網走地域を経由して阿寒等で宿泊するルートが直接釧路方面に入り込むルートより多いといわれている。

【外国人宿泊延数（対全道シェア）】

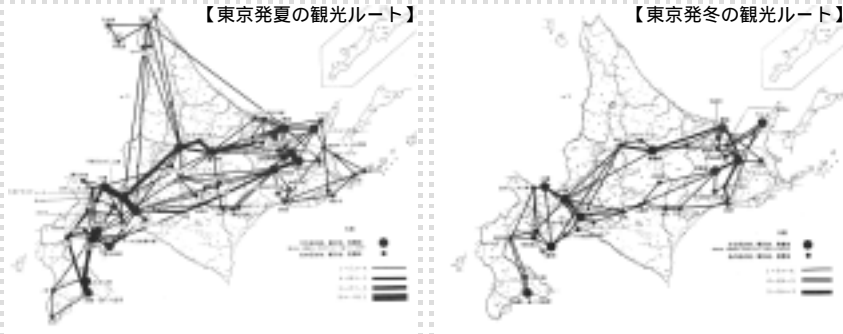


【釧路・根室圏域別外国人宿泊延数】
（平成16年度）

北海道観光入込客数調査報告書（北海道）

観光ルートの設定状況

東京発の観光ルート設定状況を見ると、新千歳空港発着が221ルート（実数）で最も多いが、次に釧路空港の50ルート、女満別空港の47ルートなどとなっている。新千歳空港発着では、バスによる移動がほとんどであるが、釧路、女満別空港では、レンタカーを組み込んだ「フリープラン」が2割程度を占めており、増加傾向にある。



大手旅行代理店パンフレット等により作成

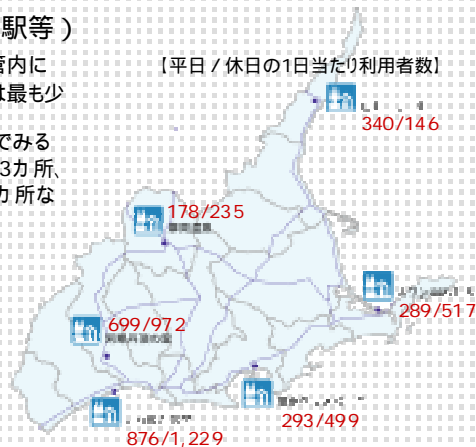
観光情報の提供状況

観光情報の提供場所等（道の駅等）

北海道に92カ所ある道の駅だが、管内には6カ所となっており、道内の圏域では最も少ない（最も多いのは道央の35カ所）。

また、面積比（100平方キロ当たり）で見ると4.1カ所に止まっており、道央の15.3カ所、道南の15.2カ所、オホーツクの14.0カ所などに比べ見劣りする。

また、施設内にある情報端末の利用状況を見ると、休日の厚岸では施設利用者の3割弱が利用しているが、その他では1割にも満たない。なお、その内訳は、天気（19.0%）や道路画像（18.1%）、道路情報（16.7%）が上位で、「みどころ」は14.6%の利用となっている。



釧路開発建設部調べ

レンタカーの利用状況

東京発の観光ルート設定状況を見ると、釧路、女満別空港では、レンタカーを組み込んだ「フリープラン」が2割程度を占めている。
 これら空港及びその周辺と阿寒湖や知床などの観光地を結ぶ路線では、レンタカーの利用率も高い。
 なお、利用率だけを見ると、とりわけ阿寒湖周辺が高く、各空港や知床などへ放射線状に伸びていることがわかる。



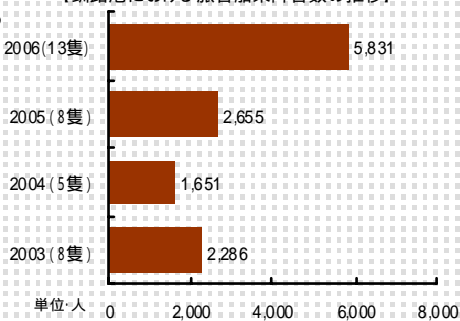
観光客のニーズを踏まえた道路整備課題検討業務報告書（平成14年）
 札幌開発建設部

旅客船の状況と観光

釧路港寄港客船の状況

釧路港利用整備促進協議会の釧路クルーズ振興部会では米国クルーズ船会社のキーパーソン（運航計画責任者）を招請する事業や、釧路港みなと観光交流促進協議会の社会実験では旅客船の乗客をターゲットにしたフットパス(歩くことを楽しむ道)コースの開設などが行われている。
 【釧路港における旅客船乗降客数の推移】

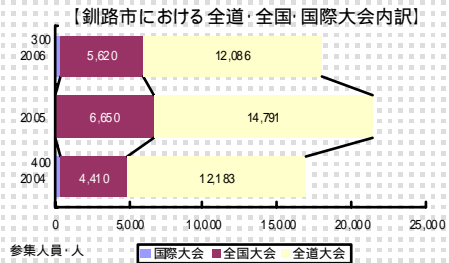
ちなみに釧路港に寄港した客船は、2006年で13隻、乗客数5,831人と大幅増加となっている。



釧路開発建設部資料

国際会議、コンベンション等の開催状況

釧路・根室地域における最近時の主要な国際大会及び全国大会などの開催状況をみると、全国大会は千人規模のものが例年開催されているが、国際大会については規模も小さく断続的な状況にある。コンベンションは、交通アクセスや宿泊機能など地域の「総合力」が計られるため、今後の活発化が期待される。



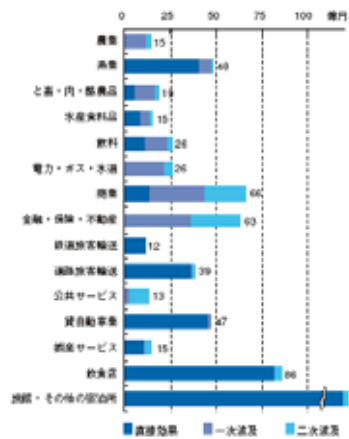
- 【主な全国大会】（原則として1,000人以上）
- 2005年 第20回釧路湿原全国車いすマラソン大会（1,120人）
 - 第3回日本神経疾患医療福祉従事者学会（約1,500人）
 - 第26回全国中学校スポーツアスリート大会（約1,600人）
 - 2004年 日本生態学会第51回大会（約1,600人）
 - 日本学生永上競技選手権大会（約1,300人）
 - 2003年 全日本中学校バレーボール選手権大会（約2,000人）
 - 第9回地域福祉実践研究セミナー（約1,500人）
 - 民事介入暴力対策協議会釧路大会（約1,500人）
 - 2001年 全国都市監査委員会事務研修会（約1,400人）

- 【主な国際会議・大会】
- 2006年 日中韓観光担当大臣会議
 - 2005年 ツールド北海道（第1及び第2ステージ）
 - 2004年 世界子どもサミット釧路大会（約200人）
 - 日本スポーツ教育学会（約200人）
 - 2002年 ツールド北海道国際大会（約300人）
 - 世界ジュニアスピードスケート選手権大会（約500人）
 - 1993年 ラムサール条約第5回締約国会議（約1,200人）

釧路支庁及び釧路市資料等により作成

観光消費の経済効果

観光の地域経済への波及効果（2000年推計値）は、観光消費額646億円で、うち域内消費額が555億円となり、生産波及効果859億円（うち付加価値誘発額474億円）、雇用効果7,700人と試算されている。また、こうした観光消費は、旅館や飲食店だけでなく、様々な産業分野に波及効果を及ぼしている。

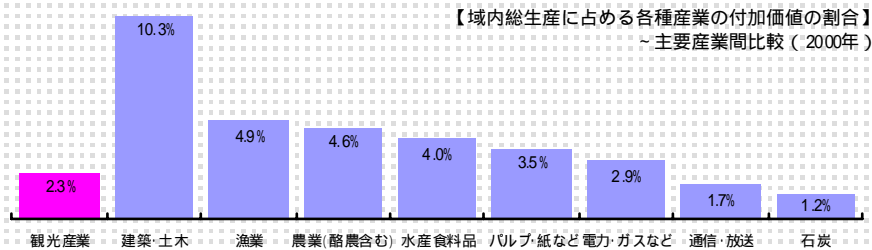


【産業別にみる観光消費の生産波及効果（2000年）】

地域経済の自立的発展と観光産業 釧路・根室地域における観光産業の可能性を探る
 釧路公立大学地域経済研究センター・財団法人日本交通公社（共同研究）

観光消費の経済効果

観光産業の域内付加価値は294億円（2000年推計値）は、域内総生産1兆2,694億円の2.3%を占めており、既に基幹産業と呼ばれる農業や漁業の半分程度の規模にまで達している。このように、釧根地域における観光は、地域の重要な産業となりつつある。



地域経済の自立的発展と観光産業 釧路・根室地域における観光産業の可能性を探る
釧路公立大学地域経済研究センター 財団法人日本交通公社（共同研究）

体験型観光(事例)

地域の体験型観光等の動向

釧路・根室地域には、ラフティングやホーストレッキングといった他地域でも見られるもののほか、より地域に密着した産業体験(牧畜、酪農、畑作、水産業、林業)や自然再生事業(植林、育林、外来植物除去)、文学体験(石川啄木など)、歴史発掘(縄文、擦紋、アイヌ文化)、食文化史(世界的固有種シヤモ、釧路ラーメン、丹頂ソバ)などのツアーを提供するNPOもあり、数年前の年間約2.5千人から、現在では4千人程度の規模にまで達している。

その他では、期間限定あるいは単発的な営業を行っているところが多く、事業者やイベント毎の年間利用者数をみると、数十人から数百人程度となっているところが多い。



【釧路魚河岸ツアー】



【酪農体験ツアー】

各種新聞記事等により作成

新たな観光(事例)

体験型観光のほか、地域における新たな観光メニューについて、新聞記事などから整理すると、主要なものとしては、以下の12ツアーが挙げられる。

これらは単発的、イベント的な色彩が強く、例えば厚岸古番屋冒険ツアーはピーク時でおよそ1,500人、アザラシウォッチングツアーも例年100人程度の集客があるが、その他について数十人といった規模が多く、マスツーリズムにはそぐわない面もあるが、多様化するニーズへの対応や他との差別化といった視点からすると、になうべき役割は大きい。今後はこれらツアー数の増加のほか、PRなどによる集客力の確保なども重要となる。

【地域における新たな観光メニュー】

【アザラシウォッチングツアー】

- ・厚岸古番屋冒険ツアー、別寒辺牛湿原カヌーツーリング、アザラシウォッチングツアー、アサリ掘り体験ツアー（以上厚岸町）
- ・魚河岸ツアー、石炭ツアー、バルブ港湾ツアー（以上釧路市）
- ・タンチョウ写真撮影ツアー（阿寒町）
- ・あったかふるさと再発見ツアー 青い海コース（釧路町）
- ・しばれ体験ツアー（鶴居村）
- ・バードウォッチング（根室市）
- ・スギ花粉リトリート（避難）ツアー（上士幌町）



各種新聞記事等により作成

シーニックバイウェイ(事例)

シーニックバイウェイとは、「みち」をきっかけに地域住民の方々と行政とが連携し、景観をはじめとした地域資源の保全・改善の取組を進めることにより、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりを図るものである。

【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】

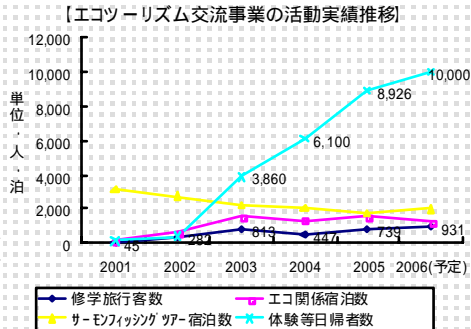
なお、平成17年には「シーニックバイウェイ北海道」が本格的に施行、平成18年11月には「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」もその指定を受けたことにより、今後ルート景観調査（景観診断・景観ウォッチング）、シーニックカフェ（弟子屈+中標津エリアとの連携）などが実施される。



標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会（事例）

標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会では、豊かな自然環境や農業・漁業などを活用し、地域HACCPでの水産現場の見学、加工体験、河川でのサーモンフィッシング体験、山菜ツアーなど地域のあるがままの自然、産業活動を体験してもらうため、地域一体となって都市住民との交流を行っている。

また、「町民ガイド」制度を作り、漁業、加工、フィッシング、山菜採り等の体験学習の場において、町民をガイドとして育成し、現地での対応を行っている。
これらの活動により、「体験交流の町」として中高生の修学旅行など、観光客が年々増加しており、2006年度は修学旅行客931人、日帰り体験1万人の受け入れを予定している。



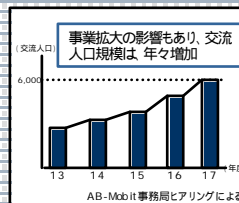
標津町資料により作成

AB-Mobit 根室フットパス（事例）

酪農家集団「AB-Mobit」は、農村と牧場の持つ素晴らしい景観と安らぎの空間を都市住民との共有財産として楽しみ育み、また消費者の牧場体験や牧場散策、牛とのふれあい等により酪農業への理解を深めてもらい、さらにはこれらの地域と都市住民との交流を通して地域の営農継続意欲の高揚や地域の活性化につながる活動を行うことを目的に5戸の酪農家が参加し、設立された。



- ・平成13年 「ビュービレッジ」構想を策定、西厚床と富岡牧場にキャンプ場を計画
- ・平成14年 ミニワークショップによりキャンプ場を富岡牧場に設置することを決定
- ・平成15年 厚床駅～富岡牧場10.5キロのコース整備、農業、農村交流館完成
- ・平成16年 第2回根室フットパスワークショップ開催、キャンプ場基本施設に着手、調査・整備ウォーク(参加19名)、標津線廃線跡ウォーキングツアー(同41名)等実施
- ・平成17年 第3回根室フットパスワークショップ開催のほか、「築拓キャンプ場」とフットパス海岸コース(20キロ)、AB-Mobit!食多楽クラブ(農産物加工体験、そばの栽培やそば作り等)を立ち上げた



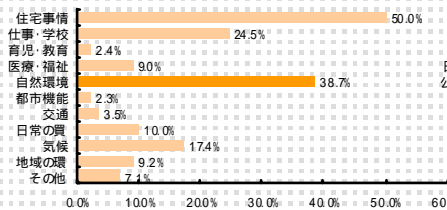
<http://www8.ocn.ne.jp/~abmobit/nemurofootpaths/nemurofootpath1.htm> (ほか)

豊かな自然を享受できる地域づくり

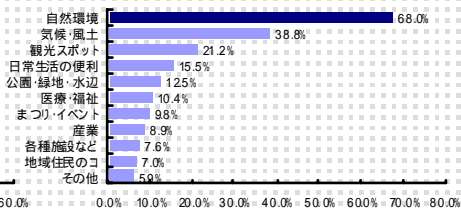
地域への愛着と住み続けたい理由

釧路市が実施した調査によると、これからも住み続けたい(「ずっと」+「できれば」と考える市民は82.4%で、その理由としては「自然環境」が38.7%と、「住宅事情」に次いで高い。また、自慢できるところでは、「自然環境」が68.0%で他を抜きでた結果となっている。これらから、自然環境がこの地域の大きな魅力であることが裏付けられることから、今後もこうした魅力を損なうことなく活かし、将来的にもこのような調査で都度チェックしていくことなども考えられる。

〔釧路市に住み続けたい理由・複数回答〕



〔釧路市の自慢できるところ(上位のみ)・複数回答〕

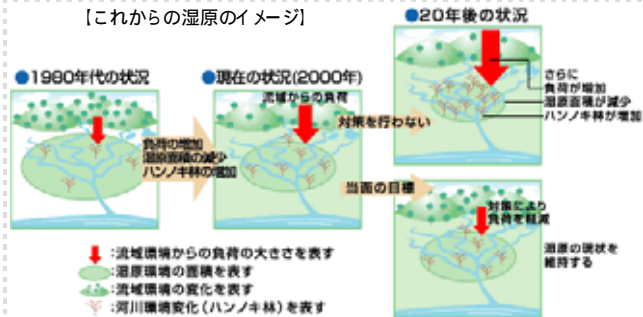


まちの採点簿調査結果報告書(釧路市)

釧路湿原自然再生協議会(事例)

釧路湿原はわが国最初のラムサール条約登録湿地であり、タンチョウやキタサンショウウオをはじめとする多様な野生生物の貴重なすみかとなっているが、近年、流域の経済活動の拡大に伴い湿原面積が著しく減少し、湿原植生もヨシ・スゲ群落からハンノキ林に急激に変化している。

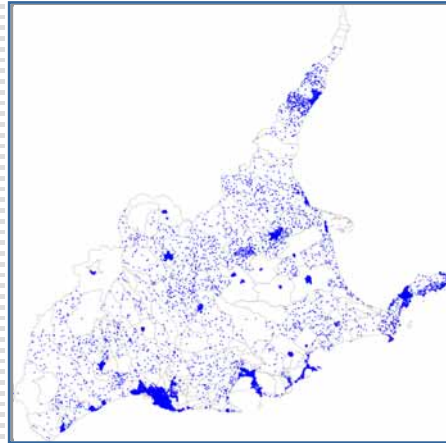
このため、関係省庁や自治体、地元NPOなどで構成する「釧路湿原自然再生協議会」が設立され、湿原を次の世代へ継承するため、さまざまな取り組みが進められている。



<http://www.kushiro-wetland.jp/>など

30分通勤・通学圏の状況

地域の30分通勤通学圏（青点が30分圏内、赤点が30分圏外）をみると、全就業・通学者数23.5万人のうち、およそ8割の18万人で30分圏内を実現している。
 このことは、比較的職住近接が図られているためと考えられているが、30分圏外（赤点）をみると各地域に点在しており、その解消に向けては総合的な交通アクセス整備が求められる。

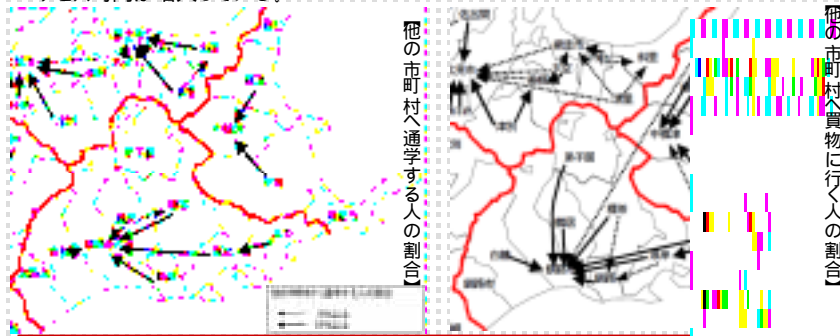


平成12年国勢調査
総務省統計局

通学・購買圏の状況

30分通勤・通学圏と同様に通学、購買の動向をみると、通学では当該市町村以外では近接する釧路市や中標津町への通学が中心となっており、比較的遠方としては標茶町、厚岸町から釧路市へといった流れが挙げられる。

購買では、釧路市及び釧路町、中標津町への集中がさらに顕著となり、通学に比べてアクセス時間が増大している。



北海道広域商圏動向調査報告書（北海道）

望まれる医療機関アクセスの定時性確保

釧路市には管内の病院・医師の半数以上が集中しており、年間2,000件以上の救急搬送や30万人以上の通院患者がいる。分散する居住地や今後の高齢化などを踏まえ、所要時間の定時性確保がより一層必要と望まれる。

【釧路市への救急搬送数】



【道路整備による所要時間の短縮】
～1997年と2004年の比較～



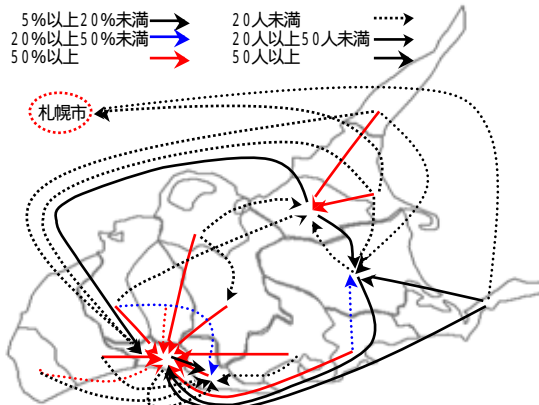
【釧路市への医療集積】

	病院	病床数	医師
釧路管内	34	5,856	489
釧路市 (管内)	18 (53%)	3,950 (67%)	364 (74%)

北海道保健統計年報 / 北海道ほか

地域における出産の状況

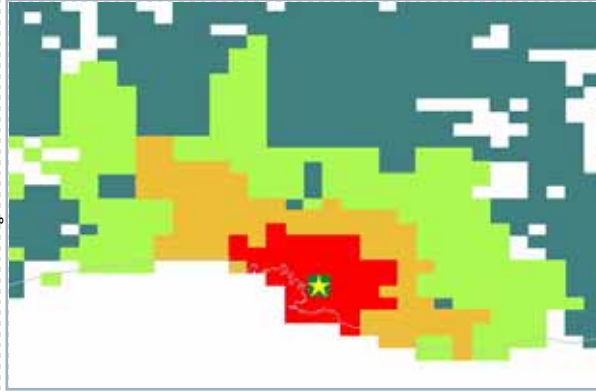
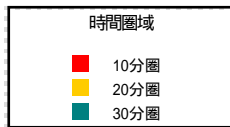
地域で分娩が可能な医療機関は、7病院、2助産院の9カ所しかなく、釧路管内は釧路市に集中している。根室管内は、中標津町もしくは別海町でなければ、釧路市や札幌市などで出産せざるを得ない状況にある。



北海道保健福祉部子ども未来推進局
:道内各地域の分娩動向調査

釧路市の救急医療圏域

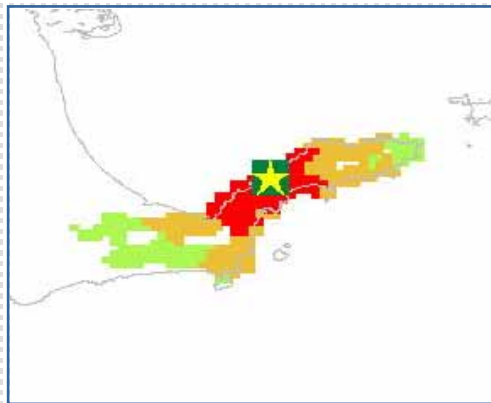
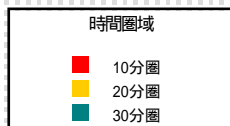
救命救急に必要となる病院を起点とした30分圏域(概ね救命率が50%を超える医療措置までの時間:以下同じ)をみると、釧路市では人口ベースで11万人(釧路・根室圏の30.4%)がカバーされている。



注) 移動時間は「NITAS」の「平均旅行時間」による。
 地域や高速、国道、道道などの種別により異なるが、道内国道は概ね平均時速42km程度。
 総合交通分析システム(NITAS)により未来総研作成

根室市の救急医療圏域

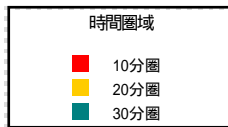
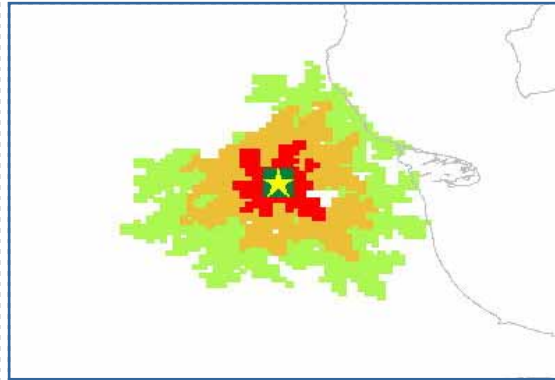
救命救急に必要となる病院を起点とした30分圏域をみると、根室市では人口ベースで3万人(釧路・根室圏の8.2%)がカバーされている。



注) 移動時間は「NITAS」の「平均旅行時間」による。
 地域や高速、国道、道道などの種別により異なるが、道内国道は概ね平均時速42km程度。
 総合交通分析システム(NITAS)により未来総研作成

中標津町の救急医療圏域

救命救急に必要となる病院を起点とした30分圏域をみると、中標津町では人口ベースで4万人（釧路・根室圏の11.0%）がカバーされている。

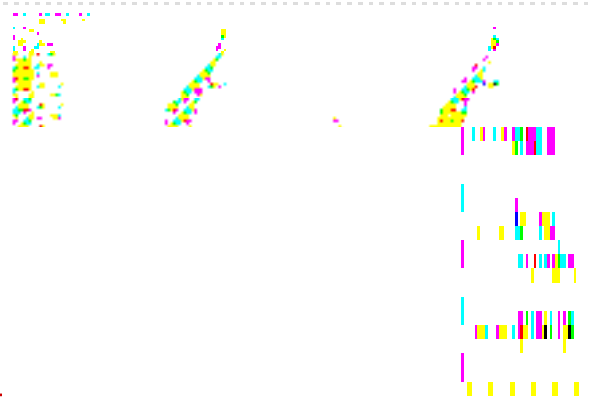


注) 移動時間は「NITAS」の「平均旅行時間」による。
 地域や高速、国道、道道などの種別により異なるが、道内国道は概ね平均時速42km程度。
 総合交通分析システム(NITAS)により未来総研作成

広域分散型地域としての救急医療体制

高度医療が可能な第3次医療施設のある釧路市までの搬送時間に関して、サービス水準(7.9分:全道34市から三次医療施設を有する4市を除く29市の平均所用時間)を上回る

のは管内6市町村となり、カバー人口率は39.7% (釧路市を除く)である。候補路線を含む全ての高規格幹線道路等が整備されればカバー率は92.3%まで向上すると想定されているが、それでも道路整備だけでは7市町がサービス水準を確保できないことが予想されている。



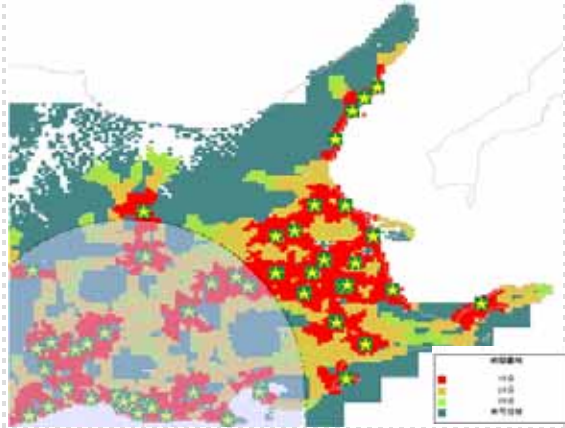
救急医療活動からみた道路整備効果の評価に関する一考察
 (北海道開発土木研究所月報第596号)

医療

ヘリによる救急医療圏域

管内でドクターヘリが就航可能な空港やヘリポート、グラウンド（道および市町村調べ）等は98カ所あるが、30分以内にこれら地点まで到達できる地域は非可住地を除く面積では約97%、人口ではおよそ99%をカバーしている。

なお、3次医療施設がある釧路市を起点として、ドクターヘリの70km圏（目標として初期治療を15分以内に行える目安）をみると、範囲内の人口は約25万人で管内の70%をカバーしているが、主として根室方面は範囲外となる。



注) 移動時間は「NITAS」の「平均旅行時間」による。
 地域や高速、国道、道道などの種別により異なるが、道内国道は概ね平均時速42km程度。
 なお、近接する地点は1箇所のみ表示の場合もある。 総合交通分析システム(NITAS)により未来総研作成

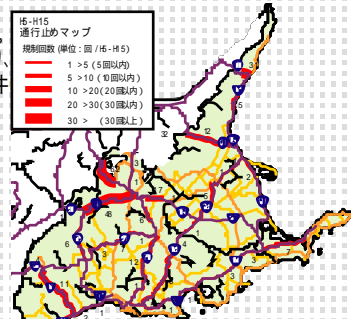
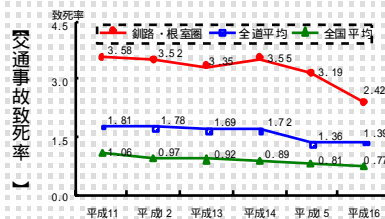
防災

事故の減少

釧路・根室地域の交通事故致死率は2.42で、近年低下傾向にあるが、全国平均の0.77、全道平均の1.39を上回っている。また、交通事故死者の事故類型割合をみると、「正面衝突」が最も多く28%となっている。

このため、「ランブルストリップス」の整備などが進められており、平成15年に設置された2カ所では設置前に4件あった正面衝突が0件になるなど効果が検証されている。

また、近年ではエゾシカによる被害も増加しており、平成16年には自動車関連の事故が19件、列車支障件数が666件となっている。



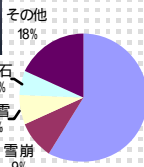
【釧路開建通行止め履歴（平成5～15年）】

交通事故致死率 | 交通事故100件あたりの致死率 釧路開発建設部資料
 ランブルストリップス) 路面にカマゴコ状の凹型を連続して配置することにより、通過車両に対し不快な振動や音を発生させ、ドライバーに車線を逸脱したことを警告する交通事故対策

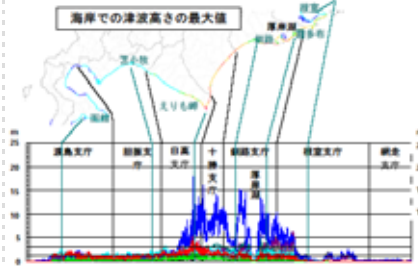
地震・豪雪の状況

釧路・根室地域は、地震活動が活発な地域で、これまでも地震による被害に見舞われているほか、中央防災会議が公表した「五百年間隔で発生しうる地震」による津波の推計値では、津波高さの最大値が釧路管内で15mになるなど、甚大な被害が予想されている。

また、雪に関する災害などにより通行止めが多発している地域でもあり、特に吹雪は通行止めの原因の過半数を占めており、昨冬季も多雪等による被害を被っている。



【要因別通行止め履歴
(平成5～15年)】



釧路開発建設部資料及び中央防災会議資料等により作成

災害などへの対応状況

耐震強化岸壁がもたらす「安心・安全」

釧路・根室地域で、耐震化岸壁の整備が実施済みなのは、根室港(根室港区)で、対象背後圏人口約32千人のうちおよそ2千人と想定されている被災人口に寄与している。

このほか、計画では、釧路港(背後圏人口約200千人)、霧多布港(同約2.4千人)、羅臼漁港(同約2.2千人)で予定されている。

これらは防災、減災のほか、航路維持や道路被災時の陸の孤島化対策にも寄与している。

【耐震強化岸壁などの整備状況】



釧路開発建設部資料

災害などへの対応状況

ハザードマップ整備状況

釧路・根室地域において、ハザードマップを整備している市町村は、6市町で、「津波」が3市町、「火山」が2市町（重複を含む）、「洪水」が2町となっている。

今後もこれら整備が急務だが、市町村単位でなくより広域的な対応が必要である。

【管内市町村のハザードマップ作成状況】

市町村名	津波	火山	洪水
弟子屈町			
標茶町			
鶴居村			
浜中町			
厚岸町			
釧路市			
釧路市			
白糠町			
羅臼町			
標津町			
中標津町			
別所町			
根室市			



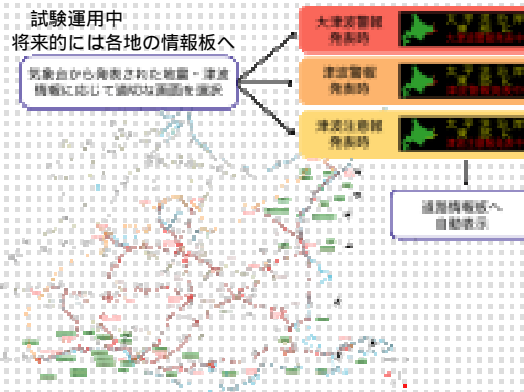
釧路支庁及び根室支庁資料（平成17年度）等により作成

災害などへの対応状況

「地震・津波情報表示システム」の試験運用

平成17年3月より、左記道路情報板にて、気象台から発表された地震情報・津波予報を迅速に表示する「地震・津波情報表示システム」の試験運用が開始された。

このシステムは、地震情報（震度4以上）及び津波予報（警報・注意報）を受信すると、太平洋沿岸等の国道に設置している道路情報板へ自動表示させることが出来るシステムで、道内で初の試験運用となった。

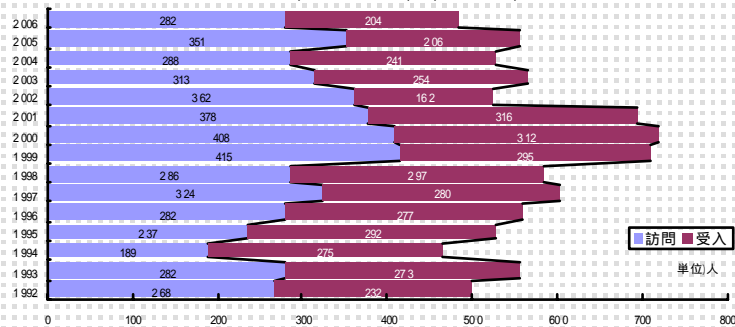


釧路開発建設部資料

ビザ無し交流

釧根地域は、我が国で最も北方領土に隣接する地域であり、各種の経済交流や北方四島交流訪問事業（ビザ無し交流）における重要な役割を担っている。

【「北方四島交流事業(ビザなし交流)」(北海道分)の実績推移】



「北方四島交流事業(ビザなし交流)」実績
北海道

釧路 - 台湾ビジネスマッチング協会(事例)

釧路 - 台湾ビジネスマッチング協会は、地場産品の台湾への販路拡大を図るとともに、台湾とのさまざまなビジネス交流を通じ、釧路地域ビジネスの国際化・活性化を推進することを目的として、平成17年7月に設立された。

平成17年9月の商談会では1社、平成18年2月は5社から見積依頼(いくら、かに、昆布加工品など)があったが、今後は価格、流通など課題をクリアして、具体的なビジネスにつなげていく取り組みを進めていく予定でいる。

平成17年9月

釧路の水産関係団体と連携し、台湾及び香港のバイヤー(7社11名)を招致しての商談会開催

平成18年2月

台湾流通関係事業者約30社を現地ホテルに招致し、釧路からの出店事業者12社によるサンプル商品PRと個別商談会の実施

【台湾における
釧路観光物産展の様子】



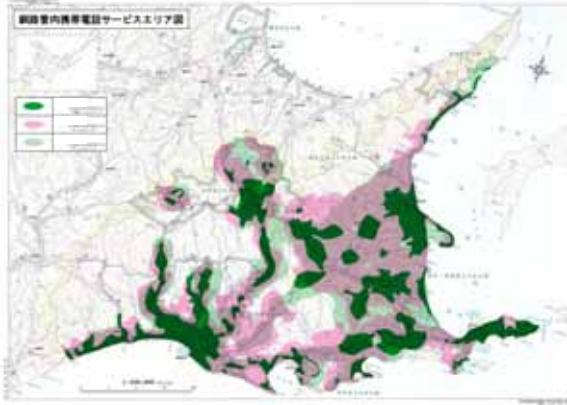
週刊水産新聞などより作成

情報通信サービスの現状

携帯電話サービスエリア

【携帯電話のサービスエリア】

観光など各種情報デバイスとしての活用も期待される携帯電話だが、管内のサービスエリアをみると、国道における不通区間が約131キロとなっており、総延長の約16%に達している。

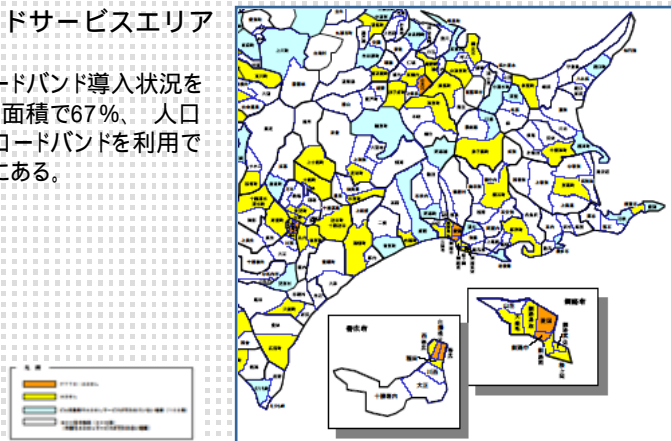


釧路開発建設部調べ

情報通信サービスの現状

ブロードバンドサービスエリア

地域のブロードバンド導入状況を見ると、管内面積で67%、人口で34%がブロードバンドを利用できない状況にある。



情報通信サービスの現状（北海道総合通信局）